

平成27年深谷市教育委員会第9回定例会会議録

深谷市教育委員会

平成27年深谷市教育委員会第9回定例会

日 時	平成27年9月8日(火)		
	開 会	午後2時10分	
	閉 会	午後3時25分	
場 所	教育庁舎	3階	大会議室
出席委員	教 育 長	小 柳 光 春	
	教育長職務代理者	柿 沼 敬 一	
	委 員	井 上 美佐子	
	委 員	清 水 巖	
	委 員	橋 本 幾 子	
出席職員	教 育 部 長	澤 出 晃 越	
	次 長	植 竹 敏 夫	
	次 長	片 桐 雅 之	
	教育総務課長	葦 塚 洋 明	
	教育施設課長	吉 田 稔	
	学校教育課長	島 崎 祐 子	
	生涯学習スポーツ	岡 田 真	
	振 興 課 長		
	渋沢栄一記念館長	坂 倉 茂	
	図 書 館 長	島 田 久 一	
書 記	教育総務課	加 藤 昇	
	課 長 補 佐		
欠席職員	文化振興課長	鳥 羽 政 之	

- 1 開会
教育長が開会を宣告
- 2 前回議事録の承認
第8回定例会の会議録を全員異議なく承認
- 3 会議録署名委員の指名
教育長が柿沼委員を指名
- 4 会議の概要
 - (1) 会議
 - ① 報告1 平成27年度子ども議会について
教育部長より説明
 - ② 報告2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について
教育総務課長より説明
 - ③ 報告3 専決処理の報告について
教育総務課長より説明
 - ④ 報告4 小・中学校及び幼稚園における放射線量測定結果について
教育施設課長より説明
 - ⑤ 報告5 市立幼稚園耐震対策の進捗状況について
教育施設課長より説明
 - ⑥ 報告6 平成27年度「英語王国」について
学校教育課長より説明
 - ⑦ 報告7 平成27年度「こころざし深谷科学塾」について
学校教育課長より説明
 - ⑧ 報告8 平成26・27年度深谷市教育委員会委嘱研究発表会について
学校教育課長より説明
 - ⑨ 報告9 平成27年度全国学力学習状況調査の結果（速報）について
学校教育課長より説明
 - ⑩ 報告10 平成27年度深谷市夏季休業中の研修について
片桐次長より説明
 - ⑪ 報告11 平成27年8月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】
片桐次長より説明
 - ⑫ 議案第39号 職員の処分について【非公開】
教育部長より説明

発言の要旨

① 報告1 平成27年度子ども議会について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教 育 部 長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

② 報告2 深谷市教育委員会後援に関する事務取扱要綱に基づく承認について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育総務課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

③ 報告3 専決処理の報告について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育総務課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

④ 報告4 小・中学校及び幼稚園における放射線量測定結果について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育施設課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

(質疑なし)

⑤ 報告5 市立幼稚園耐震対策の進捗状況について

教 育 長 事務局より説明を求めます。

教育施設課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

今日は、幡羅幼稚園を見ましたが、9月にオープンした明戸幼稚園の園児はどんな感想を持っていますか。

学校教育課長 先日、明戸の方に視察に行きまして、園児とのふれあいを見ていただいたところではありますが、小学生と身近に接することができて、なかには定時になっても帰りたくないという子がいるほど、新しい園舎を気に入っているという話を園長先生や、飯嶋先生がされていました。

⑥ 報告6 平成27年度「英語王国」について
教 育 長 事務局より説明を求めます。
学校教育課長 (概要を説明)
教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
(質疑なし)

⑦ 報告7 平成27年度「こころざし深谷科学塾」について
教 育 長 事務局より説明を求めます。
学校教育課長 (概要を説明)
教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
(質疑なし)

⑧ 報告8 平成26・27年度深谷市教育委員会委嘱研究発表会について
教 育 長 事務局より説明を求めます。
学校教育課長 (概要を説明)
教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
市内の教員の参加の形態とは、どういうふうになっていますか。
学校教育課長 自校で研究発表会がある場合は、自分の学校に残りまして、研究授業をしたり、研究協議と一緒に参加して、研修します。研修発表のない学校につきましては、割り振りが決められておりまして、全ての学校に必ず関係する教員が出かけて行って、研修を行う予定です。
教 育 長 この日は、学校の給食はどうなるのでしょうか。
学校教育課長 給食を食べて、子供達は、その日は早帰りして、教員が研修をするという予定になっています。
教 育 長 分かりました。13日の金曜日ですが、よろしくお願ひします。

⑨ 報告9 平成27年度全国学力学習状況調査の結果(速報)について
教 育 長 事務局より説明を求めます。
学校教育課長 (概要を説明)
教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。
井 上 委 員 学力の新聞発表がありました。埼玉県の実状を見て、私はすごく驚き、がっかりしました。というのは、東京も入れた関東7県のなかでも最下位ですよね。全国で見ても、下から数えた方が早いということで、下から3番目という教科もありましたよね。そういうことを教育委員会では非常に厳しく受けて止

めているとおっしゃっていましたが、現場の校長、教頭はその辺をどのように捉えていたのかな、ということが1点です。

それから、教育長をはじめ、教育委員会で、色々な方策を行っていきこうということを校長会を通して教職員に伝えたときに、「校長先生は私達に点を取らせるためだ」とか、「順位を上げるためだ」といった捉え方をしている教職員が非常に多いということを耳にします。そうではなくて、教職員がこの学力テストの結果を見て、「学習指導の内容がまだ全国に達していないレベルにあるんだ」と捉え、そのためにはどのような改善をしていったらいいのか、という捉え方がされないと、いくら教育委員会が頑張っても、校長がやらせようとしても、向上しないと思います。ですから、どのように伝えていけばよいと考えているのか、また、昨日の校長会での反応はどの程度だったか、その辺を教えてください。

学校教育課長

最初の御質問の、各校長先生がどのように捉えているか、ということにつきましては、こちらの方で教育長の指示に従って、次長が、前回の校長研究協議会の方に参りまして、具体的な埼玉県の教育長の言葉として「このような結果では、各学校の取組が県民から否定的に受け止められてしまうことに対して、大きな懸念を抱いています」、「各学校でしっかり取り組むように」と伝え、具体的にどうしていったらいいかという緊急協議を小・中学校で行いました。

そのなかで、中学校の方では、「過去問題を行う、補充のステップアップレッスンをやるにしても、やればやるだけ、効果が上がるので、これからしっかり取り組んでいきたい。今年度はやや事前の準備が不足していた」という意見がありました。

また、「結果は全て授業に帰着すると思う。深谷市から出されている授業スタンダードをとにかく徹底して、授業力の向上を図っていきたい」と言っている校長もおりました。

また、「高結果だった教科の授業は、やはり見に行っても生徒が楽しく取り組んでいる。教師の授業力にかかる課題が大きいのではないか」という意見もありました。

さらに、「もう少し、国語に関する研究を進めていく必要がある」という意見もありました。

また、「授業をしっかり見に行って、授業を振り返って、その授業の中で学習内容がしっかり身に付いているか、振り返らせているかというところが、本校では甘い。また、授業のめあてなどが示されていない授業も確かにある。そういう基本的なところをしっかりと見届けをしたい」という校長の具体的な意見を拝聴して参りました。

それから、先ほど委員さんがおっしゃったようなこの事態を、点数に一喜一憂して各学校格差を示すような捉え方をして

いる教員がいるという話については、確かにそういうふうを考えている教員もいるかとは思いますが、校長会で粘り強く指導してまいります。具体的には「やはり授業を改善することが学校力を上げることに繋がると、授業を変えれば、学校が変わるんだ」という視点で取り組んでいただきたいということです。

また、トップダウンだけではなくて、これからは指導主事が各教科の主任会等の一般の先生が集まっている場所等に出かけて行って、今求められている学力というのは、全国学力学習状況調査のB問題の学力なんだということを、今までも言ってきたのですが、さらに、そういう小さな研修会にも出かけて行って、指導をして、見届けていこうと考えています。

井上委員

校長会のなかで過去問題をやるとか、準備が遅れたとかいう意見があったと思いますが、そうではなくて、やはり学力というのは基礎学力だけじゃないんです。読み書き、そろばんだけではなくて、機能的な学力、要するに関心、態度という問題ですね。それと、課題探究能力、その3つが揃って初めて学力となるわけじゃないですか。その3つを授業のなかに組み入れて、日々の授業をしていく必要があるということを教職員が理解できているのでしょうか。そういう問題を追及しないと、ワークとかドリルをやらせればいい、問題演習をすれば学力が上がる、と間違った捉え方をする教職員もいるかと思えます。それではいくら頑張っても、全国の平均にまで到達することはできないと私は考えています。校長さんたちが教室訪問したときに、これは良い授業しているなという指導力のある先生の授業だったり、教材研究をしっかりしてる先生の授業を広めていくことをしていかない限りは、学力向上には繋がらないのかなと思います。それが1点です。

この学力向上に向けてこれまで、これからと出されたなかで私が一番重要だと思うのは、沖縄の例です。沖縄は、最下位47番でずっときていますよね。ところが、沖縄の小学校は、かなり上がりましたよね。それは、指導主事が事細かに授業訪問をし、授業を観察して、そして、指導、助言したということがあって、全国平均よりも上にいったわけです。中学校は、まだ最下位ですけど。

やはり次長さん、課長さん中心に、各教科専門の指導主事の先生方が来ているわけですから、その人たちを活用して、発表のときだけの訪問じゃなくて、突然教室訪問することによって、授業改善を図り、学力とはどういうことなのかという3つの要素が挙げられる授業改善をしていかない限りは深谷市の学力はもとより、埼玉県全体としても危惧されるところではないかなと思います。

それから、今叩き込むのは、若手職員だと思うんですね。その人たちを叩き込まない限りは、改善の方には繋がっていかないと感じています。

それと学校だけの問題ではなくて、深谷市は生活習慣、学習習慣、その他の教科への関心を高いレベルで持っているわけなので、この環境の良いところで学力を上げるには、家庭も巻き込みながら、その学び方、学ぶことが楽しいんだよということに気付かせるということをしていかないと全国レベルまでにはいかないかなと思いますが、その辺はどうでしょうか。

教 育 長

今、4つあったと思います。学力の3要素、これをきちんと教員が受け止めているか。それに対する施策がでているけども、それをどう捉えているか。

2点目が、これまでやってきたこと、これからのことについて。

3点目は、若手教員の問題。

4点目が習慣形成を含めて深谷の子供たちは国や県よりも良い心の内容等がありますが、それをどう結びつけていくか。

学校教育課長

まず、基礎基本をしっかりと身に付けさせるということは、授業のなかで最も大切なことですので、これまで以上にしっかりと見届けをしていくようにやっていきます。そして、もし、その基礎基本が身に付いていないと評価されるような児童生徒がいましたら、小学校、中学校問わず、しっかりと担任、教科担任に責任を持って教え、見届け、補充をしていただきたいという話を本日いたしました。

さらに、活用の問題については、單元ごとに終わったところで、最近教科書にも活用力を計るような練習問題等が示されていますので、活用力を高められるような問題をそこで練習しながら、単元のまとめとしていく。その活用が計られるかというところでしっかりと振り返りをさせて、そこで身に付いてないようなものがあったら、補充をしていくというような指導をしていきたいと思っています。

それから、相互に校長が授業を参観しに行くだけではなくて、市内で相互に教科や学年を超えた校内の授業参観を取り入れてもらうように具体的に指示をしています。また、既にそのような仕組みをしている学校もいくつかあります。

また、生徒が授業を評価して、先生の授業は分かりやすいとか、こういうところが良かったという授業評価をしている学校もあります。ですので、客観的に、その授業がどうなのかということも高めていけるように、そういう指導をしていきたいと考えています。ただ、おっしゃるように、最終的な見届けをするのは、校長だけではなくて、教育委員会の指導主事が行うべきですので、もう既にこの結果が出ていますので、各学校のデ

一タを持って小・中学校に学校訪問しております。ステップアップレッスンの実態も見に行っております。

さらに、各学校に指導主事が足を運んで授業力の向上に特化した指導をこれからも続けていきたいと考えています。

若手教員については、今までどおりころざし教師塾中心に指導していきますが、先程申しましたように、授業スタンダード、授業ベーシック、そして、優れた指導案を参考にして指導案をしっかりと書いて板書計画も入れられて、評価もできるというような一連の流れのなかで指導していきたいと考えています。

また、この調査の結果は、各学校ごとに学校だよりやホームページを通じまして、各家庭にも広く公開されます。そんななかで、校長が自分の学校に課題や良かった点について、しっかりとそのなかに書き込んでいって、家庭、地域に受入れていただいて、一緒に学力を高めていくというようなスタンスで進めていきたいと考えています。

井上委員 この状況を受けて、深谷市の小・中学校全教職員の全体研修の状況からどのような計画を考えていくのでしょうか。

それから、教育委員会、校長などの上からじゃなくて、例えば、各学校のブロックごと、低学年ブロック、中学年ブロック、高学年ブロック、中学校ブロックのなかでの自分たちの対策です。各学年ごとの対策を考えて、こんなふうにしていくと、学力向上に結び付くんじゃないかという校内研修の充実ですね。そういうところから盛り上げていかないと、上からいくら、やれやれと言ってもできないと思うんですね。ブロックごとから、これを上げるためには、こんなふうなことを少しずつやってみようか、といった下から上がってくるものも欲しいと思いますが、その辺の指導もなさるのか、2点です。

教育長 ボトムアップの方策ですね。その辺、課長、次長を含めてどちらかどうですか。

学校教育課長 別添でお配りしました深谷市調査結果から見える授業改善のポイントという6枚ページくらいの横版のものがあると思うんですけど、なかなか、校長先生に頑張れ頑張れと命じるだけでも、いろいろな教職員もいますし、事情もさまざまですので、校長先生も大変かなというところで教育委員会として支援するというので、このようなシートを作りました。

これは、各教科で課題があった、深谷市としては課題があった、全国平均と達成率が低かったという問題を集めて、市の平均、県の平均、国の平均を示して、自校が何点ですという正答率を示すようになっていきます。教員全員で研修会で活用して、指導改善のポイントをみんなで共通理解していきましょうというものです。これを実際に各学校の研修会で活用していただい

て、自分たちの学校での学びの躓いているところや、深谷市が躓いているところがどこかということ全員が分かることによって、それぞれの学年での授業改善に役立てられるかなと考えています。

また、全員の教職員を集めての研修会ということは、まだ計画は立ってはいないのですが、夏休み中も、後でお示しますが、研修会をたくさんやっておりますが、先ほども申しましたが、これから各学校を頻繁に回ることや、いろいろな研修会に教育委員会の指導主事が参加して、今の学力の課題やこれから取り組んでいきたい内容について、直に教職員にも話していきたいというふうに考えています。

片桐次長

井上委員さんから御指摘いただいたとおりだと自分も考えております。校長先生方にお話したのは、今回の全国学調、県学調の結果を、いわゆる単なる数値として終わりにしてしまうのではなく、これを1つの課題として、学力向上というのは小・中学校にとって、一番大きな課題でもあり、教育としてなすべきことですから、それをしっかりやらなくてはいけない、正対して向かってほしいという話をしました。そのために、まず学校が自分たちの学校でやるべきことをしっかり考えてください。もちろん、私たち教育委員会も考えていきます。

委員さんおっしゃるように、トップダウンとして、みなさんに共通してやっていただきたいことは、授業のなかで基本の型をしっかりとマスターしてほしい、それがスタンダードであり、ベーシックです。若い先生方に、特にこの型をマスターしてもらいながら、その中から自分の持ち味を出していく。型なくして、持ち味は出ないというところを徹底してやっていきたい。数年間かかるとは思いますが、それをやっていきたい。これはトップダウンの中で一番大きなものかと思えます。

また、ボトムアップについては、各学校で学習向上推進委員会はありますが、一番大きな柱は教育研究会、あるいは教研主任会で同じ教科が集まっていますので、そこでの授業研究であるとか話し合いをより大きなものにしていきながら、授業研究をがっちりやってもらって、自分の学校だけじゃなくて教科としての質を上げたいということがまず1つと、中学校ブロックで様々な小・中一貫教育を研究していますので、そのなかで若手の方策であるとか、中学校で取り組んでいる方策を他にも広めながら、やっていきたいと思っています。全体研修会については、少し工夫をして、全員というのは夏休みしかありませんので、少し少しお時間いただいて検討してまいりたいと思います。

先ほど課長も申し上げましたように、今回の結果に私たちも正直ショックを受けています。ただ、来年には、この一年はな

んかよくなったかな、と言えるような形で、そしてそれを地道に積み重ねるようにしていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

教 育 長

中期的な取組とありますが、中期というのはいくらぐらいのスパンで考えているのか、短期的な取組、長期的な取組はどういうふうに捉えているのか、それが1つです。

それから、25、26年と、言い方悪いかもしれないが、深谷は大変良かった。2年続いたから本物かなと思ったら今年ガクンと厳しい現実がある。このギャップをどう捉えているのでしょうか。

学校教育課長

まず、中期的、長期的という部分では、先ほどお示しました「これから」というのが、まずは、中期的な目標かなと思っております。それを徹底していくことによって、深谷市の学力の底をしっかりとした基盤とし、その上に言語活動や思考力という部分の長期的な学力をつけるものが続いていくのかなと考えているところです。ですので、来年、再来年というものではなく、長期的なスパンで学力向上という部分を考えているところでございます。

2つ目の御意見に関しましては、昨年度とのギャップというところですが、担当としましても今回の結果については大変驚いているところです。しかし、学校でこの結果をできるだけプラスに活かし、より改善できるようにしていきたいと思っています。

先ほどお示した小学校の資料「調査結果が見える授業改善のポイント」の小学校6年生の算数を見ていただければと思うのですが、これはもう既に一学期の段階から算数主任会等でこの問題については共通理解を図っている問題です。しかし、結果の方は国と比較しまして差が10.6ポイントあります。それは何故かという、右の側に回答類型がありまして、深谷市の子供がどこで躓いているかというのが具体的に記されています。深谷市の子の躓いている部分は、しっかりと説明する際に根拠となる事柄が不足していたりとか、表現が不十分であったりとかそういう部分であります。こういうところは、学力の基礎である、相手に対してしっかりと説明するというところを、日々の授業を元にして重点的に指導する一つの手段になるのかなと思っていますので、そういう部分も結果を活かしながら授業改善に繋げていけたらと考えています。

教 育 長

短期的にすぐできること、長期的にどういう学力3要素を完成形に持っていくかとそこも、もう一度考える必要があるかなというふうに思います。

⑩ 報告10 平成27年度深谷市夏季休業中の研修について
学校教育課長 (概要を説明)

教 育 長 本報告について、質疑はありませんか。

井 上 委 員 15ページの授業におけるICT活用研修会の知識構成型ジグソー法というのを教えてください。

それから、22ページの、この研修会の保護者というのは、ちょっと気になる子供を抱えている保護者に参加要請したのか、全く希望者なのか。

それから、28ページの最後の管理職登載者研修会の中で、教頭というのは校長を助ける・校務を整理する立場にあるわけですよね。それが何か教頭という立場になっているにも関わらず校長を助けるという部分がどうなのかと考えられるような管理職の立場の方たちが来られるようなことも耳にします。

また、校長という立場では校務を司るだけじゃなくて、教職員の指導にも入らなければならないわけですね。今、学力向上の問題でいろいろ問題になりましたが、やっぱりそういう、これはと思う教職員を育てていかなければならない立場にいるわけですよね。その辺の意識はどういうふうにあるのか、この研修会を通しながら、何か感じることはありませんか、またどのような指導をしたのかが、もう少し分かりましたら教えていただきたい。

それから、8ページに算数・国語なんかの指導をしていく中で教材研究の面白さが分かってきたというような感想がありますが、分かるじゃなくて、それは当たり前のこととして、教材研究をきちんとしないといけないということがあるわけですが、こういう研修を通して分かったということはいいんですけど、その辺の研修を通しての指導を教育委員会として、どのように進めていくかという、4点お願いします。

教 育 長 まず、15ページのICT活用で知識構成型ジグソー法、というものかということですね。

2点目が、保護者サポート講座ですね。どういう保護者が参加しているのか。

3点目が28ページの管理職登載者研修の中身的なことですね。

4点目が8ページの指導法研修会の参加者の姿勢についてですね。

学校教育課長 15ページの知識構成型ジグソー法と申しますのは、子供たちを例えば、6つの班に分けます。そしてそれぞれの班に課題を与えます。そこで、例えば、井上先生の班が6人いるとします。その6人が、1番から6番までの課題の班に分かれます。そうすると、井上先生の班の6人が1番から6番の課題のところに行って、それぞれ違う課題について、実験したりして、話

し合い、学習してきて、また自分の班に戻ってくる。戻ってきたら、自分がやった実験については、自分の言葉で説明して、班員の人たちに理解させるようにするというような、活用問題を重視したような構成になっている学習法です。

2点目の保護者の件でございますが、これは研究所で各学校で不登校だったり、不登校傾向であったり、ちょっと発達障害があったりして上手く適用してないなと思われる症状がでている保護者さんに、上手に学校がお母さんが聞いて嫌だなと思わないように案内を出します。それで、来ていただける方を呼ぶようにしている研修でございます。

最後の教材研究のやり方が分かったというようなことから、教員は年数に関わらず、かなり指導力に差があるということが現実の問題です。校長には、教室訪問を足繁くしていただいて、その教員の課題に応じた指導をしていって、とにかくステップアップしていって、指導力が上がるようにきめ細やかに指導していきます。その際には、人事評価などを活用して、自分の1年の目標をしっかりと立てた上で研修を行い、こういう授業ができるようになりたいということをトップダウンではなくて、教員1人1人に身近な目標を持たせてやっていくことも大事なかなと思います。

また、教育委員会としましても、指導力に問題のある教員も授業を見れば分かりますので、重点的に相談しながら指導していくことが必要かなと思います。管理職については、次長にお願いしたいと思います。

片 桐 次 長

28ページ管理職登載者研修ですが、御案内のように隣の27ページの学校運営研修会と併せて、昨年度から年2回ずつこの研修を始めさせていただきました。これについては、ミドルリーダーの養成、そして登載者については、登載者として、これから学校を預かる校長として、あるいは教頭として1つの学校を任せられる人材であってほしいという願いからこの研修を行っています。

そのために、この研修は、最初の講義で、細かい仕事の話ではなく、所謂、人として、管理職として、どうあるべきかを伝えているつもりです。

もちろん研修では代表者に発表していただいて、1つは組織力の向上で、この時は小学校代表者で浅見教頭が発表しました。中学校代表者は、南中学校の田野主幹教諭が発表しましたが、その発表を受けて小グループ4人、5人のグループに分かれて討議をしまして、最後にもう1回指導するというパターンです。まずは校長の思いがあり、その思いをどう具体的にして、それを教職員にどう伝えていくか、それがまずしっかりできなくちゃだめだという話をしています。

同時に、教頭には、校長の思いに対して、教職員との狭間に立つときに、両方の思いをプラスにするような教頭じゃないといけないという話をしているつもりです。

ただ、自分も、指導しながら、協議を聞きながら、まだまだ足りないなと思うこともありますので、ある意味、見極めながら、そういう方々には個別に指導するようにしています。この後、島崎課長の方で後半戦をやりますので、そこで更に厳しく取り組んでいきたいと思えます。

教 育 長 誤植がありますね。①が中学校の田野先生、②が小学校の浅見教頭ですね。

⑪ 報告 11 平成 27 年 8 月深谷市立小・中学校教員等の発令について【非公開】
【非公開案件につき内容は省略】

⑫ 議案第 39 号 職員の処分について【非公開】
【非公開案件につき内容は省略】

教 育 長 本日の議事はすべて終了いたしました。

次回第 10 回定例会は、10 月 13 日（火）午後 1 時 30 分開会です。

以上で、平成 27 年深谷市教育委員会第 9 回定例会を閉会します。